



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）海上安全分科委員会（SC 1）、同救命作業部会（WG 1）、その他の安全設備作業部会（WG 2）、防火作業部会（WG 3）東京会議

開催場所： 東京海洋大学

会議期間： 2023年6月26日～29日

参加者： 7カ国22人

海技研からの出席者： 宮崎 恵子 国際連携センター長

概要：

- ISO/TC 8/SC 1（以下、SC 1 と略す）は、国際海事機関（IMO）の国際救命設備コード（LSA コード）の脚注で参照されている、生存艇及び救助艇の艀装品の要件を定めた ISO 18813 が 2006 年版から 2022 年版に更新されたことに伴い、参照年版の更新を提案する文書を IMO へ提出することに合意し、決議として承認した。
- SC 1/WG 1（以下、WG 1 と略す）は、救命設備に関する審議において、停滞していた ISO/PWI 15734（船舶及び海洋技術—水圧離脱装置）の改訂作業の再開と、降下式乗込装置に関する 2 つの規格 ISO 16706:2016 及び ISO 16707:2016 の改訂作業の開始に、それぞれ合意した。これらは、SC 1 で決議として承認された。



TC 8/SC 1 集合写真

前列左から WG 3 幹事補佐（日本）、SC 1 議長（日本）、SC 1 幹事（米国）、WG 2 議長（中国）、WG 3 議長（日本）



TC 8/SC 1/WG 1 会議の様子

日本、フランス、米国、デンマークから参加

主な貢献

宮崎は、2023年5月に SC 1 議長に就任し、日本を含む各国からの参加者の意見を調整し、審議を主導した。また、SC 1 傘下の WG の内、WG 1 議長代理を務め、救命設備に関する規格の改訂及び新規作業の審議を主導した。

主な審議結果

SC 1 は初日と最終日、各 WG は二日目と三日目の終日及び最終日の朝に、並行して開催された。当所職員が参加した会議の主な審議結果は以下の通りである。他の会議及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。



1 SC 1における審議

ISO 18813:2022（船舶及び海洋技術－生存艇及び救助艇の艀装品）

本規格は、生存艇及び救助艇に備え付ける糧食（食料品）や飲料水、生存に必要な艀装品を規定したものである。2006年版から2022年版への改訂は、備える内容に変更はないが、糧食と飲料水の容器にパッキングの日付と使用期限を表示する規定が追加された。この規格は、IMOのLSAコードの糧食と飲料水に脚注で参照されているため、参照年版の更新を提案する文書をIMOへ提出することに合意し、決議として承認した。

2 WG 1における審議

2-1 開発中の規格

ISO/PWI 15734（船舶及び海洋技術－水圧離脱装置）の改訂

本規格の水圧離脱装置は、本船から海上に退避せざるをえなくなり保管容器に入った救命いかだを海上に投下した際に、水が入ることで保管容器といかだの固縛を解除していかだを離脱させる装置であり、この規格はその機能要件を規定したものである。現行のISO 15734:2001について、耐腐食性等を見直すための改訂が過去のSC 1会議で議決されたが、見直しに資する十分な試験結果を得ることができず、改訂作業が停滞していた。オランダは、前プロジェクト・リーダー（スウェーデン）から本件を引き継ぎ、再利用型と使い捨て型の基準の明確化、性能試験、目視検査等を見直しを主な目的として、改訂作業を行いたいと説明した。審議の結果、オランダのMr. Willem Heijboerをプロジェクト・リーダーとして改訂作業を開始することに合意した。

2-2 新規作業

ISO 16706:2016（船舶及び海洋技術－降下式乗込装置－係留と降下の荷重算定）及びISO 16707:2016（船舶及び海洋技術－降下式乗込装置－容量の算定）の改訂

本規格の降下式生存艇乗込装置は、本船から海上に退避せざるをえなくなった場合に、海上に展開された救命いかだに本船の暴露甲板から乗り込むためのいわゆるシュータのことである。フランスは、現行の2件の規格において、降下式乗込装置の設備の定義及び設定が明確でないとして、明確な定義の追加等の本改訂の目的を説明した。本件はSC 1の正式な新規作業項目として承認される前の段階であるため、フランスの修正案について意見交換を行った。この結果、両規格案の適用範囲を変更せず、フランスのMr. Aurelien Olivinをプロジェクト・リーダーとして改訂作業を開始することに合意した。

3 次回の会議予定

次回のWG 1は、上記2の3つの規格の審議を進めるため、今年2023年11月頃にオンラインで開催される予定である。次回のSC 1会議は、2024年の春に米国にて開催される方向で、都市は調整中である。

以上